

# 教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科文化科学系助教の加納なおみ先生をご紹介します。  
加納先生は、大学院では比較社会文化学専攻日本語教育コースにご所属で、学部では日本語教育副専攻をご担当です。

## 多言語多文化社会で 生き抜くために

*Kano Naomi*  
加納 なおみ



### Q ご出身、ご経歴などについて 教えてください

東京の大田区です。日本語教育には高校生の頃から関心がありましたが、当時は大学で日本語教育を学べる所はほとんどなく、津田塾大学の国際関係学科に進学しました。

### Q 長い間、海外生活を 送られたのですよね？

夫の海外転勤で、シンガポールに7年、アメリカのニューヨークに8年いました。大学卒業後、一般企業への就職を経て、日本語教師養成課程を修了した直後、夫がシンガポールに転勤することになりました。シンガポールでは、日本語教師として私も仕事をすることができて本当に幸運でした。

多言語多文化社会であるシンガポールで働いているうちにもっと勉強したくなり、英語教育のディプロマ・コースに入りました。日本人は私一人で、東南アジアの文化的な多様性を同級生から学び、視野を広められました。この経験はその後の自分に、非常に影響を与えていると思います。帰国後、シカゴ大学日本校で修士（哲学・人文学）を取得、仕事を再開したところでニューヨークに転勤になり、コロンビア大学教育学大学院に入って2つ目の修士（教育学）を取り、そのまま博士課程に入り、去年修了しました。

### Q 海外では、仕事・勉強 だけでなく子育ても？

シンガポールで勉強を終えた後、現地で長男を出産しました。夫は仕事で忙しく、当時はほとんどあてになりませんでしたので、産後4か月で仕事に復帰する際には、近くに住むイギリス人女性やインド人女性たちが息子を預かってくれて、なんとか乗り切りました。ニューヨーク時代は、近所の日本人家族と仲良くなって、お互いの子どもを預け合っていました。

息子は、教育言語も変わる国際間の移動で文化的にも生まれ、大変な面もあったと思います。国際的に移動する子どもたちや家族への共感や理解、また彼らが抱える様々な問題への尽きない興味が私の研究の原点の一つになっています。

### Q 現在の研究内容について 教えてください

私の研究の柱は2つあり、一つはリテラシー教育、もう一つはバイリンガル教育です。これらの分野に興味を持ったのは、シンガポールのインターナショナルスクールで日本人高校生にアカデミックライティングを教え始めた時、教え方が全くわからなかったことがきっかけでした。その後、日本の大学で日本人への日本語アカデミックライティングの指導に関わった後、ニューヨークに渡り、日本

語・英語ともにライティングの経験が圧倒的に少なく苦勞している多くの日本人中・高校生を目の当たりにしたことで、リテラシー教育とバイリンガル教育をつなげて研究するようになりました。

多言語化が進む日本の社会において、多言語話者がどのように日常的に言語を使っているか、どのように言語を使って考えたり、文章を書いたりしているか、というような言語使用の実態を多くの人に理解してもらえようという研究を進めていきたいと考えています。

### Q お茶大の印象、学生に向けて のメッセージをお願いします

お茶大生はとてもまじめで勉強熱心、という印象を持っています。優秀な卒業生の方たちと、海外も含めあちこちで多く出会い、お茶大の底力を実感しています。皆さんも、これから国内外を問わず、様々な場所で活躍していくことと思います。好奇心をもって異文化を楽しみ、互いの違いの背景を理解し合うことで、他者を尊重し、自己を深める体験を積み重ねてください。

文責：西川 朋美  
(大学院人間文化創成科学研究科  
文化科学系助教)